1907

PORT OF NAGOYA

公益財団法人

名古屋みなと振興財団

本部　〒455-0033　名古屋市港区港町1-3
TEL 052-654-7080　FAX 052-654-7001
http://www.nagoyaaqua.jp/

名古屋港ポートビル　〒455-0033　名古屋市港区港町1-9
TEL 052-652-1111　FAX 052-661-8646
http://pier.nagoyaaqua.jp/

名古屋海洋博物館

Nagoya Maritime Museum

南極観測船ふじ

Fuji Antarctic Museum

出会い、ふれあい名古屋港

ようこそ名古屋海洋博物館、南極観測船ふじへ

名古屋港ポートビルの3、4階に設けられている名古屋海洋博物館は、名古屋港の歴史を始め、現在の姿、そして港・船・貨物など多岐にわたって紹介したみなとの博物館です。

また、名古屋港ポートビル周辺には、日本の南極観測に貢献した「南極観測船ふじ」を永久係留し、南極の自然や観測の様子を紹介した「南極博物館」を設置しています。

このほか、両施設のあるガーデンふ頭には、日本最大級の規模を誇る名古屋港水族館や緑地広場などが設けられています。大型旅客船バースには内外の豪華客船や帆船などが着岸し、一帯は一大海洋文化ゾーンとなっています。

名古屋海洋博物館

Nagoya Maritime Museum

私たちの暮らしを支えている品物の多くが、世界各国から船で運ばれてきます。世界をつなぎ、エネルギーや食料を運ぶ名古屋港は巨大なステーションです。
名古屋海洋博物館は、「日本一の国際貿易港・名古屋港」をテーマに、港の役割や人々の暮らしとの関わりなどをわかりやすく紹介しています。
実物やパノラマ模型、港の臨場感をたっぷり体験できるシミュレータなど、魅力いっぱいの展示となっています。

エントランス

光と映像で来館者をお迎えします。

日本一の名古屋港

自働化コンテナターミナル

飛島ふ頭にある日本初の自働化コンテナターミナルの100分の1の可動模型は、ターミナルのスケールを実感できます。

3F

ライブジオラマ名古屋港

日本一の規模を誇る名古屋港のパノラマ模型（2500分の1）。55インチの大型モニターで主な施設を紹介しています。

みなとシアター

海の玄関・名古屋港を最新の映像で紹介しています。日本語・英語・中国語の3か国版の他、ダイジェスト版、テーマ別も選択できます。

伊勢湾シーバース　　中部国際空港（シーアンドエアー）

みなとの役割

港と世界を結ぶ船

人や貨物を運ぶ主要な船舶を紹介して、その形態・大きさ・構造の違いを紹介しています。

みなとの役割

船の動きと貨物の流れ

港で働く人々の仕事を通じて貨物の流れを知ることができるコーナーです。

おたのしみブリッジ

船舶のブリッジ再現空間

船舶のブリッジを実物の舵輪やレーダーなどで再現したスペースです。船長の制服と帽子も着用できます。

コンテナ輸出入貨物の流れとしくみ

コンテナ貨物がどのような手続きを経て輸出入されているのかをグラフィックで紹介しています。

操船シミュレータ

名古屋港をコンピューター・グラフィック（CG）でリアルに再現し、映像の中で船を操縦する本格的な操船シミュレータです。昼や夜の時間帯や、晴れ雨嵐などの天候も選択できます。

名古屋港を行き交う様々なもの

実物大の20フィートコンテナの中には自動車部品、セラミックス、産業機械部品、食料品、牧草、飼料、製材、衣料品などが積み込まれています。

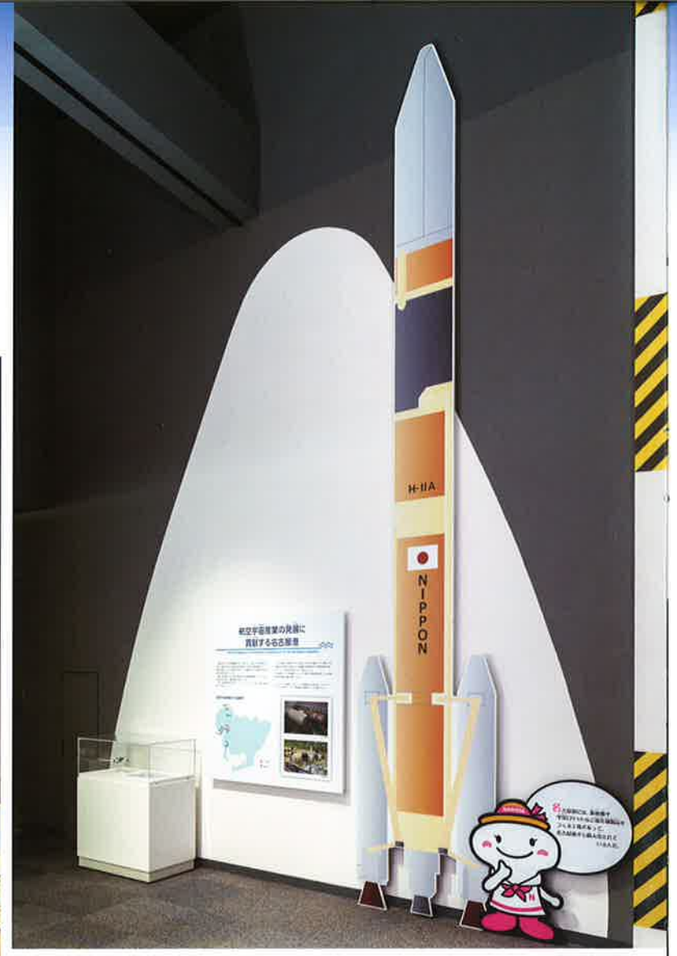
体験リアルポート

ガントリークレーン・シミュレータ

コンテナ荷役の主役、ガントリークレーン。地上約45mからのガントリークレーンの操作がゲーム感覚で体験できます。

輸出用自動車の実物展示

自動車は、名古屋港を代表する輸出品で、北米、欧州、中近東、アジアなど世界各国に運ばれています。



航空宇宙産業の発展に貢献する名古屋港

名古屋港には、最新鋭の旅客機や、宇宙ロケットの生産工場が立地しており、名古屋港から船積みされ運ばれています。

名古屋港の歴史
(名古屋港の技術と歩み)

グラブバケット

名古屋港の発展を支えた浚渫船のグラブバケットの実物大模型

名古屋港の技術と歩み

船着き場としてにぎわった熱田浜から現在まで、名古屋港の歴史を模型などで紹介しています。

開港当時の名古屋港
(現在のガーデンふ頭あたりのジオラマ)

ライブラリー&プレイ

パソコンや書籍などで名古屋港の情報が閲覧できるコーナーです。また、工作教室や企画展示など多目的に活用できるスペースです。

情報コーナー

ビデオライブラリーでは、船や海運、昔の名古屋港や科学番組等の映像を見ることができます。また海事ライブラリーでは、図書を閲覧することができます。

工作教室

毎月第2、第4土曜日には、飛び出して見える不思議な 3D立体カードや、当館オリジナルのペーパークラフト教室等の工作教室を開催しています。

Q&A コーナー

楽しみながら学べるコーナーです。

海を通じた交易と世界とのつながり

船を使った海上交易は古くから世界各地で行われており、
その歴史を映像や実物展示で紹介しています。
また、名古屋港の姉妹港、友好港などの国際交流活動も紹介しています。

世界の帆船

船の歴史が残る6000年前から現在に至るまでを模型と年表で紹介しています。

スパイス

東南アジアで生産されるスパイスは、中世ヨーロッパでは金以上に価値がありました。

古代ローマ時代の交易

古代ローマでは、2つの把手を持ち先の尖った「アンフォラの壺」を使用して交易を行っていました。1985年に発見された沈船より引き上げられたものを展示しています。

海のシルクロード

大航海時代の海上の交易品を紹介しています。古代の東西貿易は、内陸アジアを横断する「シルクロード」でしたが、船の建造技術が発達すると海路が交易の中心となり「海のシルクロード」と呼ばれました。

世界とのつながり

名古屋港の姉妹港・友好港を紹介しています。

大航海時代の帆船

大航海時代の船は、海賊の襲撃や植民地での紛争に備えて、大砲を装備していました。

南極観測船ふじ

Fuji Antarctic Museum

1965年から18年にわたって活躍した南極観測船「ふじ」は、名古屋港のガーデンふ頭に1985年から永久係留されています。厚さ80cmの氷を連続して割って進むことが可能な、わが国初の砕氷船でした。観測隊員たちの夢と成果を乗せて、日本と南極を何度も往復した実物ならではの、ロマンと迫力を感じてください。
船内には、航海中や観測の様子を再現した展示や、大陸内の移動に活躍したわが国初の雪上車やヘリコプターもあり、南極観測の様子にふれることができます。

1F 第一甲板

食事のほかにも、ミーティングや「ふじ大学」という南極を学ぶ講座、映画会などが開かれ、長い航海中の乗組員のレクリエーションの場ともなった食堂があります。前部は乗組員幹部の寝室です。

航海中の乗組員や観測隊員の食事を作った調理室

B1 第二甲板/地下

観測隊員や一般乗組員の部屋、医務室、理髪室などがある第2甲板。氷を割って進んだ心臓部のエンジンルームはさらに下層ですが、その一部をここから見ることができます。

航海の約5ヶ月間、乗組員の健康をあすかっていた医務室

手先の器用な人が散髪を担当したという理髪室

布製3段のベッドの一般乗組員の寝室

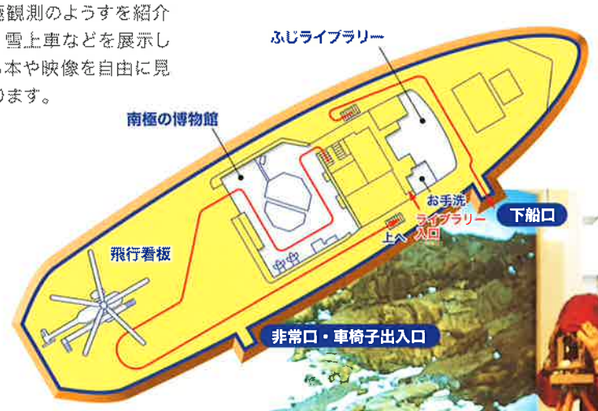
第12観測隊員がくつろいだ居室

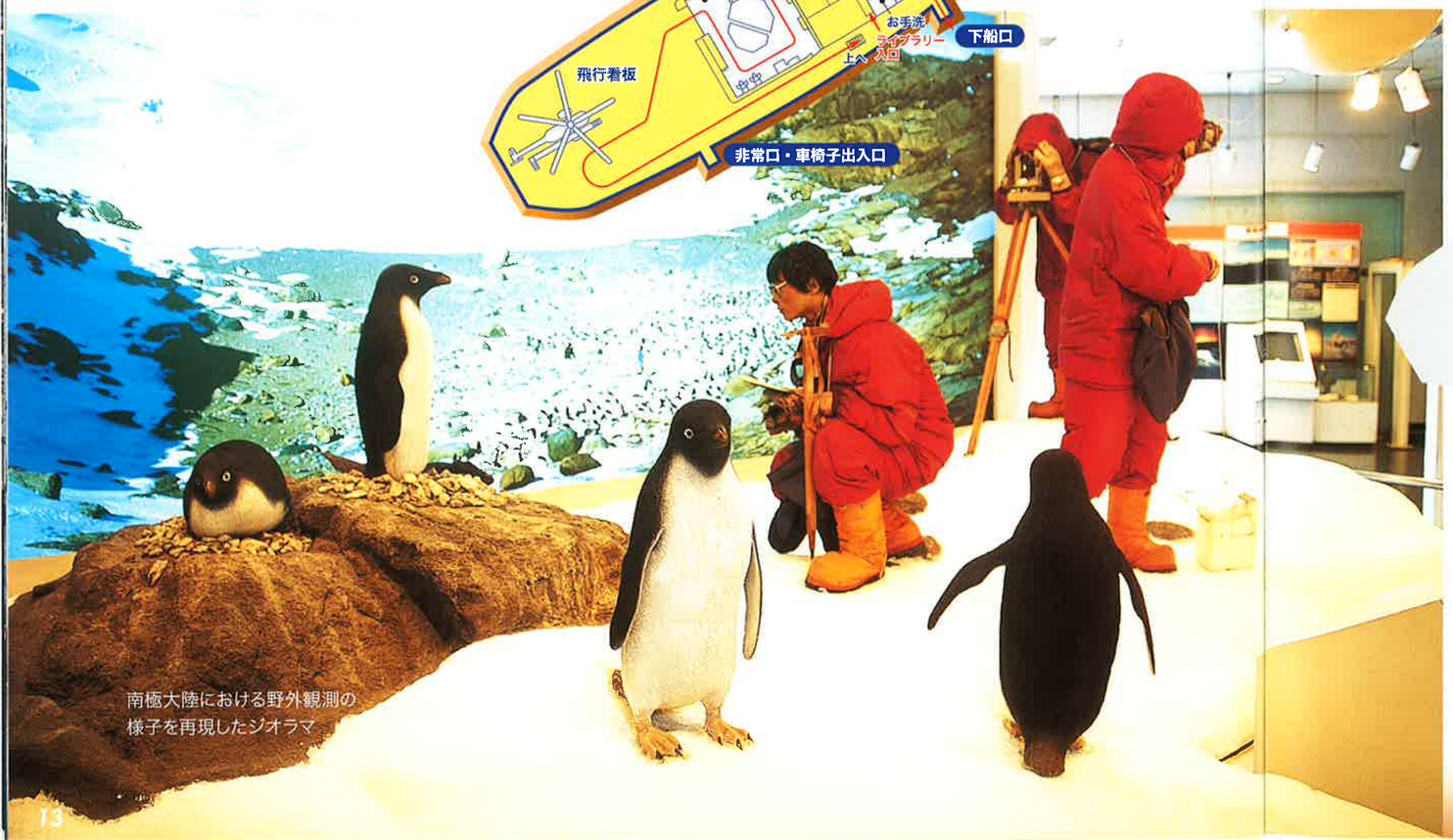
物資輸送に活躍した
ヘリコプター

南極や南極観測船ふじのことが
学べるQ&Aコーナー

2F
01甲板

ヘリコプター格納庫を改造した展示室では、パネルや映像などで南極観測のようすを紹介し、南極の氷や犬ぞり、雪上車などを展示しています。南極に関する本や映像を自由に見られるライブラリーもあります。



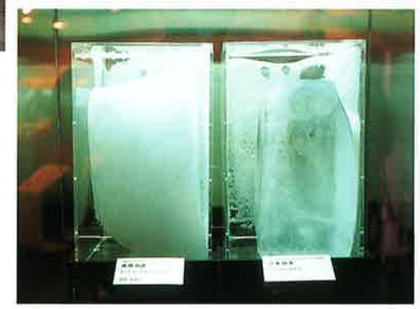


南極大陸における野外観測の
様子を再現したジオラマ

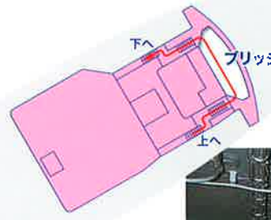
実際に南極観測隊が使用した雪上車や2トン積
みの木製そりなどの貴重な資料が並ぶ展示室

3F
03甲板

最上階はブリッジ(操舵室)。総航行距離68万km、地球17周分の航海を支えだふじ」の司令塔です。



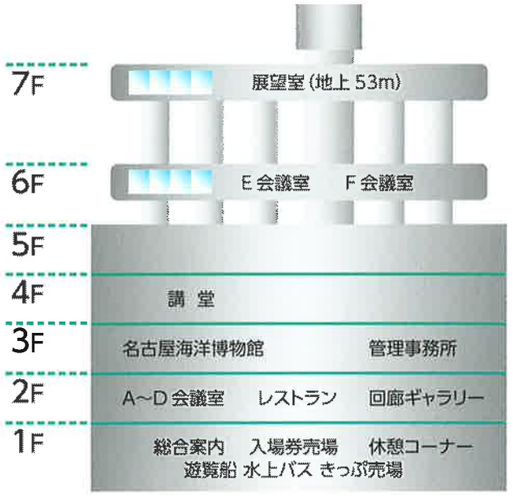
南極観測隊が持ち帰った
南極の氷(左)と日本の氷(右)



操船に必要な計器が備えられたブリッジ

名古屋港ポートビル

Nagoya Port Building



海に浮かぶ‘白い帆船’をイメージした名古屋港ポートビルは、名古屋海洋博物館を始め地上 53m の展望室やロビー、団体待合室、講堂、会議室などを備え、市民と港のふれあいの場となっています。

レストラン

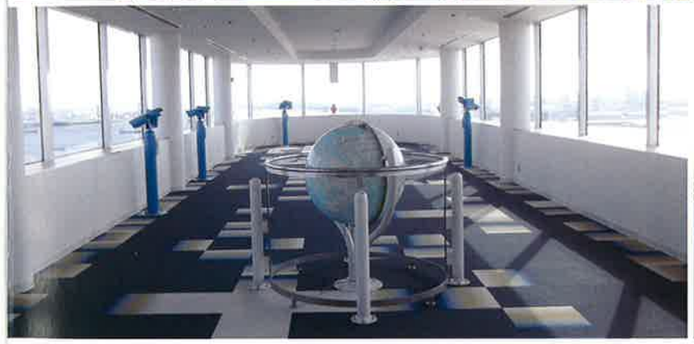
ロビー

講堂

回廊ギャラリー

休憩コーナー

会議室



展望室 7F

地上53mの展望室は、南は鈴鹿、北は御嶽の山々までご覧になることができます。

客船入港

ガーデンふ頭臨港緑園

みなと祭り

ふじの広場（雪上車）

ふじの広場（ふじのスクリュー）

ふじの広場（タロとジロの像）

教育普及事業

Educational Activities

特別展・企画展

名古屋海洋博物館・南極観測船ふじでは、主に船、港（名古屋港）、海・自然、南極等をテーマに、様々な特別展・企画展を開館以来ほぼ毎年開催しています。

船をテーマとしたもの

- モデルシップアラカルト（和船から近代船まで）
- コロンブスとサンタマリア号
- 帆船模型展
- 世界の客船展
- 帆船時代の交易展　など

海と自然をテーマとしたもの

- 海と気象のおもしろ科学展
- 千石船と尾張の海運
- セラミックス・シーロード
- 安全な海上輸送を求めて

など

港をテーマとしたもの

- 名古屋港と木材の今昔
- ミナトの荷役進具展
- 日本のみなと100年を見る
- 名古屋港の漁法
- 名古屋港の化石展　など

南極をテーマとしたもの

- ロアルド・アムンゼン展
- ふしぎ大陸南極展
- 南極の悲劇と奇跡展
- 南極観測100年の歴史を学ぶ

など

ボランティア

南極観測船ふじでは、ボランテイア制度を導入し、現在は、「メンテナンスボランテイア」と「解説ボランテイア」が活躍しています。
「メンテナンスボランテイア」は、船体の維持のために、さび落としやペンキ塗装などを行い、「解説ボランテイア」は、南極観測船の役割や、南極観測の意義、南極の自然などについて解説をしています。

普及事業（イベント）

海自思想の普及のため、数々の普及事業（イベント）を実施しています。開館以来、継続して開催している「ボトルシップ入門教室」や、港の施設をバスで見学する「名古屋港社会見学会」、港湾関係者を対象にした「名古屋港港湾ゼミナール」、南極の氷やペンギンの羽に触れていただく「南極教室」など、年間を通じて様々な事業を行っています。

開催時期	毎年実施される名古屋海洋博物館・南極観測船ふじの普及事業
8月上旬	「ボトルシップ入門教室」
8月下旬	「名古屋港社会見学会」
9月中旬	「名古屋港港湾ゼミナール」
9月下旬	海の映画会「伊勢湾台風物語」
10月上旬	「南極教室」
11月3日 表彰式 1月下旬	「名古屋港を描いた作品コンクール」
11月1日～12月末	「ボトルシップ展」
11月中旬の2週間	「帆船模型展」
12月上旬	「南極観測船ふじでの星空観察会」
3月上旬	「オホーツクの流氷に触れてみませんか」
毎月第2土曜日 （11月・12月を除く）	工作教室　3D立体カードを作ろう
毎月第4土曜日 （11月・12月を除く）	工作教室　ペーパークラフト教室

レクチャー

名古屋海洋博物館・南極観測船ふじでは、学校団体を対象にして、館内の解説やインタビュー、職場体験など、要望に応じた様々なレクチャーを行っています。

名古屋海洋博物館
（名古屋港ポートビル）

Nagoya Maritime Museum

概要

- 所在地　名古屋市港区港町1番9号
- 敷地面積　2,800㎡
- 建設面積　1,660㎡
- 建設延面積　6,503㎡
  名古屋海洋博物館　1,974.58㎡
- 建築規模　地上7階建て
- 構造　鉄骨造り一部鉄筋コンクリート造り
- 建物高　地上63m
- 開館　昭和59年（1984年）7月20日

沿革

1977年	11月	親しまれる港づくり懇談会、「親しまれる港づくりに関する提言」を名古屋港管理組合管理者に答申
1978年	3月	2号地ふ頭臨港緑園計画公表
1980年	7月	ポートビル設計競技募集
1981年	2月	競技応募作品を審査、村瀬卯市氏に決定、公表
	3月	博物館の基本構造・基本計画の予備調査を日本博物館協会に委託
	4月	名古屋港ポートビル実施計画を村瀬卯市氏に委託
	7月	博物館の基本構想・基本計画を日本博物館協会に委託
	9月	博物館展示企画委員会設置
1982年	3月	名古屋港ポートビルの実施計画完了
		博物館の基本構想・基本計画の策定完了
	6月	博物館の名称を「名古屋海洋博物館」と正式決定
		名古屋港ポートビル建設工事着工
	8月	名古屋海洋博物館の展示企画案作成委託
	11月	名古屋海洋博物館の基本設計着手
1983年	3月	名古屋海洋博物館の基本設計完了
	6月	名古屋海洋博物館の実施計画着手
	9月	名古屋海洋博物館の実施計画完了
	11月	名古屋海洋博物館の展示制作着手
1984年	4月	名古屋港ポートビルのオープンに備え、財団法人名古屋港湾会館を財団法人名古屋港文化センターに改組
	6月	名古屋港ポートビル、名古屋海洋博物館竣工
	7月	開館
1986年	2月	名古屋港ポートビル展望室入場者100万人達成
1987年	10月	名古屋海洋博物館入場者100万人達成
1988年	10月	名古屋港ポートビル展望室入場者200万人達成
1990年	3月	名古屋海洋博物館内に名古屋港貿易展示室（360㎡）を開設
1992年	10月	名古屋港ポートビル展望室入場者300万人達成
1993年	4月	名古屋海洋博物館入場者200万人達成
	11月	名古屋港ポートビル展望室入場者400万人達成
1995年	1月	名古屋海洋博物館入場者300万人達成
	8月	名古屋港ポートビル展望室入場者500万人達成
1998年	5月	名古屋海洋博物館入場者400万人達成
	7月	名古屋港ポートビル展望室入場者600万人達成
2002年	5月	名古屋港ポートビル展望室入場者700万人達成
2003年	5月	名古屋海洋博物館入場者500万人達成
2004年	4月	名古屋海洋博物館展示改装
2007年	7月	名古屋港ポートビル展望室入場者800万人達成
2009年	4月	名古屋海洋博物館入場者600万人達成
2013年	8月	名古屋港ポートビル展望室入場者900万人達成
2014年	4月	名古屋港ポートビル展望室改装
2015年	3月	名古屋海洋博物館展示改装

南極観測船ふじ

Fuji Antarctic Museum

概要

- 所在地　名古屋市港区港町108号
- 建物面積　占用水域（海面）3,697.5㎡
- 地域・地区　無指定（海面）市街化調整区域
- 用途　博物館
- 延床面積　公開面積　715.76㎡
  限定使用面積　694.63㎡
  小計　1,410.39㎡
  （非公開部分面積　3,876.22㎡）
- 建造　昭和40年（1965年）7月15日
  日本鋼管（株）鶴見造船所
- 構造　鋼構造　外壁　鋼板4.5～45㎜
  内壁　鋼板4.5～7㎜
  床　鋼板6～14㎜
- トン数　5,250トン（基準排水量）
- 全長　100m
- 全幅　22m
- 高さ　船底からマスト先端　41.5m
  地下3階から地上3階21.2m
- 階数　地下1階から地上3階（公開部分）
- けい留設計条件　風速　60m/sec
  波高　西方0.5m、南方0.6m

沿革

1984年	3月	文部省及び防衛庁にふじ払い下げを要望
	8月	南極地域観測統合推進本部（文部省）"観測船「ふじ」の後利用に係る検討委員会"を設置
	10月	第4回検討委員会開催
		ふじは名古屋港で保存されるのが最適であるとの結論が出される
	12月	海上自衛隊横須賀地方総監部とふじ売買契約締結
	12月	横須賀港においてふじ出航式
	12月	南極観測船ふじ展示企画委員会設置（管理組合内）
	12月	ふじ名古屋港に入港（24日横須賀港出港）—南3区石川島播磨重工業㈱桟橋にけい留—
1985年	1月	第1回南極観測船ふじ展示企画委員会開催
	6月	ふじ船体改造並びに回航保管工事完了
		ふじ、ガーデンふ頭にけい留—南3区石川島播磨重工業（株）桟橋からガーデンふ頭に曳航—
	7月	南極観測船ふじ展示工事完了
	8月	ふじけい留施設整備工事完了
	8月	開館
1986年	6月	南極観測船ふじの入場者50万人達成
1987年	10月	南極観測船ふじの入場者100万人達成
1992年	3月	南極観測船ふじの入場者200万人達成
1993年	11月	南極観測船ふじの入場者300万人達成
1996年	5月	南極観測船ふじの入場者400万人達成
2000年	8月	南極観測船ふじの入場者500万人達成
2006年	7月	南極観測船ふじの入場者600万人達成
2009年	3月	南極観測船ふじの入場者700万人達成